



下期の見通し

上期の売上高は前年同期間比53億円(7.5%)減の659億円でした。

下期の売上高については、昨年6月に新発売しました過活動膀胱治療剤「ステープラ錠」の育成に引き続き積極的に取り組むとともに、末梢循環障害改善剤「オパルモン錠」の腰部脊柱管狭窄症領域での新規処方の拡大を図ります。また、一昨年10月に手術後の頻脈性不整脈の効能が追加された「注射用オノアクト」については、本剤への評価を一層高める活動を積極的に推進することで、さらなる売上拡大に努めます。

さらに、糖尿病性神経障害治療剤「キネダック錠」や慢性膵炎・術後逆流性食道炎治療剤「フオイパン錠」については、潜在市場の開拓活動を継続し、処方患者数の拡大を図ります。

本年4月の薬価改定で長期収載品としてその薬価が約10%下がった気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤「オノンカプセル」、気管支喘息(小児)治療剤「オノンドライシロップ」については、研究会や学術講演会の開催を中心とした情報提供活動を一層強化し、売上拡大に努めます。

しかしながら、薬価改定(当社、5%

台半ば)に加えて、後発品使用促進策の進展や競合品との競争激化などによるマイナス影響を相当受けるものと考えておりますことから、当月下旬の売上高は前年同期間比61億円(8.3%)減の684億円を見込んでいます。

上期の営業利益は、前年同期間比57億円(21.8%)減の207億円となりました。

下期の売上高については前年同期間比61億円減の684億円を見込んでおり、売上原価は前年同期間比8億円増の113億円(原価率16.5%)、販売費及び一般管理費は前年同期間比2億円減の381億円と見込んでいるため、下期の営業利益は前年同期間比69億円(26.8%)減の188億円を予想しています。

販売費及び一般管理費のうち、研究開発費については、前年同期間比3億円増の216億円を計画しています。

また、研究開発費を除く販売費及び一般管理費については、前年同期間比4億円減の165億円を見込んでいます。

上期の経常利益は、前年同期間比54億円(19.6%)減の224億円となりました。

下期の営業利益が、前年同期間比69億円減少すると見込んでいますが、下期の営業外収支が前年同期間比で1億円の減少が見込まれますことから、下期の経常

利益は、前年同期間比70億円(25.9%)減の201億円を予想しています。

上期においては、投資有価証券売却益約13億円を計上する一方で、投資有価証券評価損12億円を計上したことから、上期の特別損益は、約1億円の利益計上でした。

下期においては、投資有価証券売却益12億円を計上する予定です。

以上の結果、下期の当期純利益は前年同期間比45億円(25.5%)減の133億円を予想しています。

通期の見通し

売上高は、前期比114億円(7.9%)減の1,344億円を予想しています。

営業利益は、売上原価が前期比7億円増の216億円(原価率16.1%)、販売費及び一般管理費が前期比4億円増の732億円と見込むことにより、前期比126億円(24.3%)減の396億円を予想しています。

販売費及び一般管理費のうち、研究開発費につきましては、前期比6億円増の396億円を計画しています。なお、研究開発費を除く販売費及び一般管理費につきましては、前期比1億円減の336億円になる見込みです。

経常利益は、営業外収支が前期比1億

円増加する見込みのため、前期比125億円(22.7%)減の426億円を予想しています。

特別損益は、当期には13億円の利益計上を予定しています。投資有価証券売却益25億円を計上する一方で、投資有価証券評価損12億円を計上する予定です。(サブプライム問題の深刻化に伴う米国を中心とした金融市場の混乱に起因した有価証券価格の下落により、当第2四半期累計期間に投資有価証券評価損12億円を計上しました。通期については、今後の株価水準を予想することが困難でありますことから、当期末の株価水準を本年9月末の水準と仮定し、平成21年3月期に当第2四半期累計期間に計上した投資有価証券評価損と同額の12億円の計上を見込んでいます。)

以上の結果、当期純利益は前期比78億円(22.4%)減の272億円を予想しています。

売上高	1,344億円 (対前期比 7.9%減)
営業利益	396億円 (対前期比 24.3%減)
経常利益	426億円 (対前期比 22.7%減)
当期純利益	272億円 (対前期比 22.4%減)